

操縦安定性試験

1. 総則

操縦安定性試験の実施にあたっては、本規定によるものとする。

2. 試験項目

この試験は次の項目について行なう。

- (1) 車線乗移り試験
- (2) 定常円旋回試験

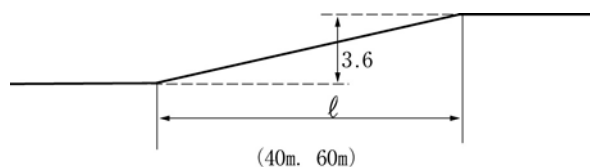
3. 試験条件

試験自動車は積車状態とする。試験路は平坦かつ水平な直線乾燥舗装路とし、測定は風速が5m/s以下のときに行う。

4. 試験方法

4.1 車線乗移り試験

4.1.1 試験路には下記のモデルコースを設定する。



4.1.2 モデルコースに従い右又は左から進入し、走行車線を変更する。

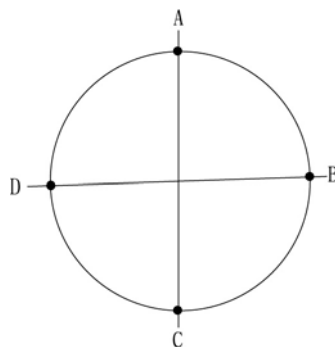
4.1.3 進入速度は40km/h及び60km/hとし、モデルコースを一定速度で走行し、乗移り距離(1)は40km/hのときは40m、60km/hのときは60mとする。ただし、最高速度が60km/h未満の車両は40km/hのみを行なう。

4.1.4 進入より乗移り完了までの間トラクタの操舵角、トラクタ及びトレーラの車両重心位置の横向加速度を記録する。

なお、外部より追従性や異常な動作の有無を観察する。

4.2 定常円旋回試験

4.2.1 試験路には下記のモデルコースを設定する。なお、A、B、C、D点はほぼ等分点とする。



4.2.2 トラクタの前車軸中心を可能な限りコースに沿わせて走行する。

4.2.3 速度は極低速、15km/h、及び可能な最高速度とする。

4.2.4 各車速における各点のトラクタ前車軸中心とトレーラ最後車軸中心との差を測定す

る。

4.2.5 残跡装置を用いる場合はこれを車軸中心にとりつけて、その残跡位置を用いない場合は、左右輪軌跡の中心をもつて車軸中心とする。

4.2.6 1周に要する時間を測定する。

5. 試験記録及び成績

試験記録及び成績は、該当する付表の様式に記入する。

5.1 当該試験時において該当しない箇所には斜線を引くこと。

5.2 記入欄は、順序配列を変えない範囲で伸縮することができ、必要に応じて追加してもよい。

5.3 定常円旋回試験の測定値の単位はmとし、小数第2位まで測定する。

付表 1

車線乗移りの試験記録及び成績

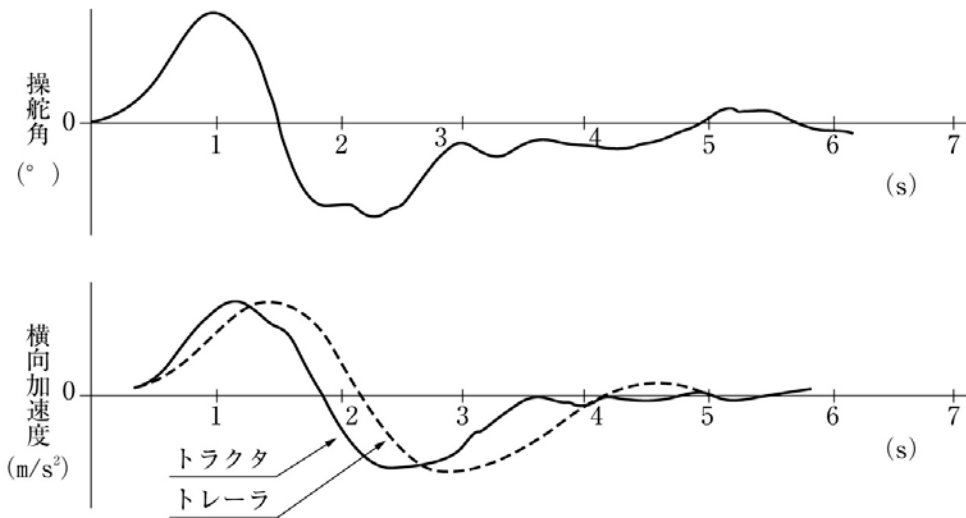
試験自動車		試験期日	年	月	日
積載量	kg	人	試験場所		
試験時車両総重量	kg		路面の状況		
軸重	トラクタフロント	kg	天 候		
	トラクタリヤ	kg	試験担当者		
	トレーラフロント	kg	運 転 者		
	トレーラリヤ	kg	観 察 者		

減衰特性

車速 _____ km/h 乗移り距離 _____ m

観察・所見

記入例



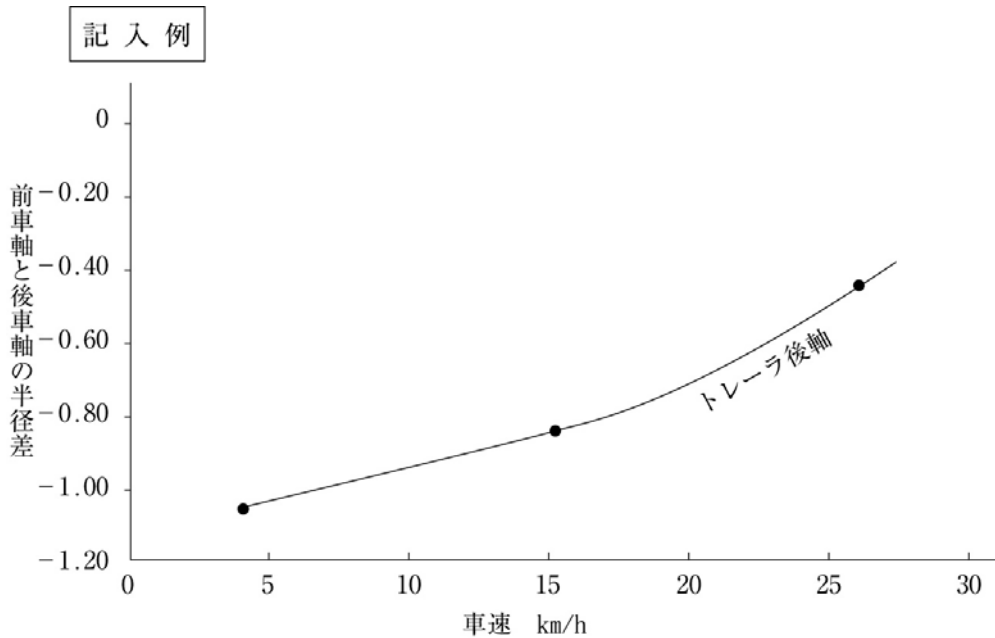
備考

付表 2

定常円旋回の試験記録及び成績

試験自動車	試験期日	年	月	日
積載量 kg 人	試験場所			
試験時車両総重量 kg	路面の状況			
軸重 トラクタフロント kg	天 候			
トラクタリヤ kg	試験担当者			
トレーラフロント kg	運 転 者			
トレーラリヤ kg				

実 車 速 km/h						
測 定 点	トラクタ	トレーラ	トラクタ	トレーラ	トラクタ	トレーラ
	前車軸	後車軸	前車軸	後車軸	前車軸	後車軸
A						
B						
C						
D						
合 計						
平 均						
前車軸と後車軸の半径差						



備考
